

義母と自宅のすぐ 近くに来た温泉 へ・・・

この街も昔からすれば結構変わった。

数年前までは田舎化もあったが最近で

は活性化している。

・・・・とある晴れの日曜日、昼下がりの午後。

昨夜降っていた雨は止んで空には薄い水色が顔を出している。

自宅のリビング。

ドアの向こうを二両編成の列車が一台
通り過ぎる。

テーブルの椅子に座って無造作にジーンズを脱ぎ、白いパンツ姿太もも丸出しで足を組んでいる義母を見た。

台所には飲みかけのコーヒーがコップに入っている。

昨夜の食事の残りがボールの中に入れてある。

.....。

.....冷蔵庫の上の花瓶がやけにシ
ュールで怪しい。

• • • • • • • • • • ◦

義母は上に来ていたキャミソールをゆ
っくり脱ぐ。

巨乳が露わになった。

．．．．窓の外は静かである。

俺はおっばいのほどよく大きな義母に
声をかけた。

「．．．．．そのコーヒーさ」

.....○

..... 妙にブランドが気になったの
だ。

「この間飲んだけどわりと美味しかったわ」

義母は組んでいた足をゆっくりほどもきハダカになった。

これからリビングでたっぷりセックス……。

「・・・・・・・・先日、近くのスーパーで買ったの・・・・・・・・」

少しだけ頬が赤らんでいる。

義母は台所のそのコーヒーのビニール袋を手を取った。

俺は義母の股間を見る・・・・・・・・。

胸元のキャミソールがすごく大きい。

自宅窓のすぐそばは列車の線路である。

二両編成の列車が通り過ぎた。。。。。

。。。。ツインベッドの上。

白いシーツは先日近くのホームセンターで薄い赤色のモノに変えたばかり。

すでに何日もの夜の激しい愛のセックスにより・・・何度も交換。

ハダカの俺たちの下でベッドの側面の木目に沿うように無造作にダランと垂れ下がっている。

ベッドの上の激しい行為は素知らぬ顔で・・・・・・・・。

(体験版は以上になります。ご読了ありがとうございました)